

令和4年度 第2回

安城市博物館協議会

令和4年9月30日(金)

午後1時30分～

歴史博物館・講座室

1 市民憲章

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和4年度開催済事業報告

(2) 令和4年度下半期事業(案)

(3) 令和5年度事業計画

4 その他

(1) 歴史資料の購入について

(2) 今後の日程

- ・合同研修 新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止
- ・第3回 令和5年2月9日(木)午後1時30分から 予定

※協議会終了後、安城市制施行70周年記念特別展「養生から健康へ」観覧(自由参加)

安城市博物館協議会委員

(任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日)

	氏名	選任区分	備考
会長	高山 忠士	学識経験者	
副会長	加藤 りせ子	社会教育	
委員	松永 博司	学校教育	令和4年 4月1日～
委員	荒井 信貴	学識経験者	
委員	市川 とし子	学識経験者	
委員	平岩 政志	公募委員	

安城市民憲章

わたくしたちは安城市民です。
わたくしたちの愛する安城を、いっそう魅力にみちた
生きがいのあるまちにするため、市民生活の心がまえとして、
この憲章を定めます。

わたくしたちは、

- *たがいに助け合い、住みよいまちをつくりましょう。
- *きまりを守り、良い習慣を育てましょう。
- *自然を愛し、きれいな水とみどりのまちをつくりましょう。
- *教養を高め、若い力を育てましょう。
- *健康で、明るく楽しい家庭をつくりましょう。

—昭和47年11月1日制定—

●安城市民憲章推進協議会●

(1) 令和4年度開催済事業報告

ア 利用状況

(ア) 月別入館者数 ※8月31日までの入館者数

月	展示観覧者						行事参加者	文献資料室 利用者	その他	延べ入館者 合計
	有料		無料		計					
	大人	計	大人	計	大人計	合計				
			中学生以下		中学生以下計					
4	151	151	1,158	1,375	1,309	1,526	2,709	17	592	4,844
			217		217					
5	239	239	2,012	3,569	2,251	3,808	4,937	15	518	9,278
			1,557		1,557					
6	211	211	1,557	4,300	1,768	4,511	4,192	16	430	9,149
			2,743		2,743					
7	2,724	2,724	1,381	2,770	4,105	5,494	3,371	11	376	9,252
			1,389		1,389					
8	7,260	7,260	4,002	7,214	11,262	14,474	8,971	28	414	23,887
			3,212		3,212					
計	10,585	10,585	10,110	19,228	20,695	29,813	24,180	87	2,330	56,410
			9,118		9,118					

(イ) 利用形態別入館者数 ※8月31日までの入館者数

月	企画展 観覧者	常設展 観覧者	講演会	歴博講座	体験講座	連続講座	入門講座	歴博イベント	歴博演芸場	企画展 関連イベント	文献資料室	その他	延べ利用 者合計
4	1,265	261	0	0	39	19	28	216	0	2407	17	592	4,844
5	2,744	1,064	0	25	228	19	28	0	0	4637	15	518	9,278
6	2,794	1,717	0	0	0	17	27	0	0	4148	16	430	9,149
7	3,447	2,047	61	0	56	0	28	0	0	3226	11	376	9,252
8	9,861	4,613	0	0	30	0	0	98	184	8659	28	414	23,887
計	20,111	9,702	61	25	353	55	111	314	184	23,077	87	2,330	56,410

その他内訳

部屋利用等	644人	職場体験	(延べ) 47人
博物館実習	(延べ) 30人	多目的利用	1,609人

イ 展示活動

(ア) 常設展展示替え

月 日	変更箇所	内 容
8月11日	村の文化	博物館実習生による展示実習

(イ) 特別展・企画展

	区 分	名 称	期 間	目標値	実績値
①	企画展	安城太郎 満70歳 —安城市のあゆみ—	4月9日 ～6月26日	7,200人	6,803人
②	特別展	怖～い浮世絵	7月16日 ～9月4日	7,000人	15,447人
合 計				14,200人	22,250人
3年度					10,431人

a 安城市制70周年記念企画展「安城太郎満70歳—安城市のあゆみ—」

(a) 会 期 令和4年4月9日(土)～6月26日(日) 実開館日68日

(b) 観覧者数 6,803人【目標7,200人】1日平均100.0人

(c) 期間中の催し物

主なものは「ウ 教育普及活動」(7ページ～)に記載

(d) 音声ガイドの利用状況 111人 (利用率2.2%) ※見学学習を除いた割合

(e) パンフレット 1,600部発行(無料配布)

(f) 展示について

- ・展示点数320点
- ・市の歴史といいながら、ありがちな市役所の歴史、いわゆるハコモノ展示ではなく、できるだけ一般の人たちが過ごしてきた安城をあらわすように展示した。
- ・安城太郎やその家族という架空の人物らが安城に生まれ生活し、見聞きしてきた物事を中心に展開するという構想は初期段階から考えていたが、広報写真が中心のため構想に合う写真が非常に少なく、他の資料群から探すなどの手間がかかった。
- ・市制70年を体験してきた人が多く、それぞれが思い出や時代感を持っているために考えや表現の仕方が違うと指摘されることが多いのであるが、想定していたほどクレームや問題点、間違いの指摘はほとんどなかった。

(g) 観覧者について

- ・アンケートでは観覧者は50代～70代が多く、特に50代が多かった。観覧状況からも50代・60代の夫婦などを多く見かけた。
- ・第1章(1952～1964)のコーナーでは、複数人で観覧した方たちの昔話が弾んでいた光景が多く見られた。目的とはしていなかったが、観覧者の回想法にも効果があったと思われる。その理由か、アンケートでの満足度評価が高かった。しかし、観覧者同士で会話が弾み、他の観覧者の観覧に支障をきたすなどの問題が発生した。対応策として入口に静かに観覧を求めるパネルを設置した。
- ・長年続いているコロナ禍の影響は本展示では見られないが、観覧者総数は以前に比べて少ない状況が続いている。やはり、ここ2年近く県内博物館全体の観覧者が減っている。今後もコロナ以後の動きとして、コロナ前のような観覧者数に戻るのには時間を要すると思われる。

b 特別展「怖〜い浮世絵」

- (a) 会 期 令和4年7月16日(土)～9月4日(日) 実開館日45日
- (b) 観覧者数 15,447人【目標7,000人】1日平均343人
- (c) 期間中の催し物
主なものは「ウ 教育普及活動」(7ページ～)に記載
- (d) 音声ガイドの利用状況 1,434人 (一般観覧者利用率9.2%)
- (e) パンフレット 浮世絵でみる!お化け図鑑(委託販売) 486冊
- (f) 展示について
- ・展示点数 107点
 - ・今回の展示は、「怖〜い」をキーワードに、妖怪・幽霊・妖術使いなどが描かれた浮世絵や肉筆画を集めた展示であった。テーマが明快で、葛飾北斎や歌川国芳、月岡芳年などの絵師の作品が一堂に会したことから多くの観覧者の満足度が高かった。
- (g) 観覧者について
- ・土日は平均491人、平日は245人の観覧者であり、目標人数を大幅に上回り達成することができた。夏休み期間中であり、親子連れの来館者も多くみられた。会期末には新型コロナウイルス感染症感染拡大対策として入場制限を行った。
 - ・来館者アンケート(回答数475)の傾向によると、市外からの来館者が80%であり、女性61%、男性38%であった。その内72%が県内市外の来館者であり、特に西三河からの来館者が多かった。
 - ・40代～60代が多かったが、30代親子や20代の来館者も多くみられた。内容が分かりやすいため受け入れられたか。また、展示や喫茶の特別展関連メニューがSNSに多く挙げられており、広い層に受け入れられたことが分かった。
 - ・記念講演会も多くの聴講者が来館した。ナイトミュージアムに合わせ展示解説を実施したが盛況であった。
- (h) PRについて
- ・テレビ4社・ラジオ・雑誌などで広く取り上げられたため来館者増につながった。名古屋市からの来館者も多く、中日新聞社との共催のためチラシ・ポスターを名古屋市に配布できたことも影響したと考えられる。
 - ・同時期に「こわい展示」を行っていた、岡崎市の三河武士のやかた家康館、豊橋市の二川本陣資料館と合同企画を行ったことで相乗効果が得られた。
 - ・ホームページで専用ページを作成したことや、きもの・ゆかた割引など指定管理者のPRが来館者の増加に結び付いた。

ウ 教育普及活動

(ア) 講演会・講座

a 展覧会記念講演会・シンポジウム

開催日	演題	講師	聴講者数
7月17日	浮世絵のなかの妖怪たち	香川雅信氏 (兵庫県立歴史博物館学芸課長)	61

b 歴博講座・入門講座・連続講座

(a) 歴博講座 会場：講座室 午後2時 聴講無料

開催日	演題	講師	聴講者数
5月21日	写真でみる安城の70年	三島一信 (本館学芸員)	25

(b) 入門講座 会場：講座室 午前10時 資料代1,000円

開催日	演題	講師	聴講者数
4月16日	古文書手ほどき	三島一信 (本館学芸員)	14
4月30日			14
5月14日			13
5月28日			15
6月11日			13
6月25日			14
7月9日			14
7月23日			14

合計111人

(c) 連続講座 会場：講座室 午後1時30分 資料代1,500円

開催日	演題	講師	聴講者数
4月9日	村絵図で巡る安城今むかし「安城村1」	高山忠士氏 (本館元館長)	10
4月23日	同上「安城村2」		9
5月14日	同上「篠目村1」		9
5月28日	同上「篠目村2」		10
6月11日	同上「今村1」		8
6月25日	同上「今村2」		9

合計55人

(イ) 指定管理 展示関連イベント

開催日	タイトル	関連展示	実施日	参加人数
4月9日～ 6月26日	未来を予想して描こう！夢みるあすの 安城	企画展「安城 太郎 満70歳」	68日間	229
4月9日～ 6月26日	みんなの写真で振り返る安城市の70年	同上	68日間	9,674
4月9日～ 6月26日	安城太郎 満70歳 企画展クイズ	同上	68日間	662
4月9日～ 6月26日	手づくりの装飾で初期の七夕まつりに タイムスリップ！	同上	68日間	477
4月30日	安城太郎検定	同上	3日間	10
5月29日				16
6月18日				14
5月5日	安城市70周年生誕祭	同上	1日間	110
7月16日～ 9月4日	クイズラリー「逃げたオバケを探せ	特別展「怖～い 浮世絵」	45日間	2,320
7月16日～ 9月4日	怖～い灯籠づくり	同上	45日間	681
7月16日～ 9月4日	怖～い浮世絵展フォトスポット	同上	45日間	3,516
7月16日～ 9月4日	怖～い浮世絵 最恐決定戦！	同上	45日間	6,851
7月30日	怖～いおはなし会	同上	1日間	30
8月26日	歴博宵語り「怖～い浮世絵展 展示解 説」	同上	1日間	31

合計 24,621 人

(ウ) 指定管理 体験講座等

開催日	講座名	講師	参加人数
4月29日～ 5月8日	「子どもの日」フォトスポット	指定管理者	267
7月22日～ 7月24日	夏休み自由研究相談会	文化振興課職員	56
8月6日	オリジナル風鈴づくり	指定管理者	30

合計 353 人

(エ) 指定管理 歴博演芸場 会場：石舞台・講座室 鑑賞無料

開催日	演 題 ・ 演 奏 者	観賞者数
8月27日	山口晃司 三味線コンサート	116
8月28日	安城芸妓衆 踊り披露	68
9月3日	怖〜い落語会	31

合計 215 人

(オ) 指定管理 歴博イベント

開催日	タ イ ト ル	参加人数
4月1日～4月8日	歴史博物館クイズラリー①	22
4月9日	懐かしの“車” 写生大会&写真撮影会	194
6月28日～7月15日	歴史博物館クイズラリー②	参加者なし
8月27日～8月28日	ナイトミュージアム「博物館ナイトツアー」	80
8月28日	ナイトミュージアム「土器ドキ晩ゴハン」	18
8月26日～8月28日	ナイトミュージアム「マイブנקエスト」	(40)

※マイブנקエストは埋蔵文化財センターで開催

合計 314 人

(カ) 見学学習

a 市内小学校 (企画・特別展、常設展、埋文セ) 見学

月 日	曜	学 校 名	学年	人 数	月 日	曜	学 校 名	学年	人 数
5 18	水	安北小	6	132	6 24	金	作野小	6	89
5 20	金	桜井小	6	161	6 28	火	三安小	6	105
5 24	火	梨里小	6	88	6 29	水	安東小	6	78
5 25	水	安西小	6	85	7 5	火	桜町小	6	108
5 27	金	錦町小	6	90	7 15	金	高棚小	6	51
5 31	火	祥南小	6	43					
6 3	金	桜林小	6	88					
6 7	火	里町小	6	99					
6 8	水	志貴小	6	34					
6 17	金	二本木小	6	108					
6 22	水	安南小	6	86					
小学校児童数 計									1,445 人
R3									1,465 人

b 市内中学校（企画・特別展、常設展、埋文セ）見学

月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数
6	1	水	安 西 中	2	263
6	2	木	安 祥 中	2	188
6	10	金	桜 井 中	2	208
中学校生徒数 計					659 人
R 3					698 人

c 市外小中学校(児童・生徒)（企画・特別展、常設展、埋文セ）見学

月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数
7	8	金	新 川 小	6	73
7	13	水	新 川 小	6	72
市外小中学校児童生徒数 計					145 人
R 3					140 人

(キ) 中高生の職場体験

【市内中学校2年生】

学 校 名	収蔵庫 見学	土器 洗い	受付	土器 作り	資料 整理	発掘 体験	文化財 保護	インタ ビュー	備 考
篠 目 中	○	○	○	○				○	4日間・男4人
桜 井 中	○	○	○						3日間・男2人
安 祥 中	○	○	○	○					4日間・男2人
明 祥 中	○	○	○	○					4日間・男2人
参加生徒数 計									10 人
R 3									14 人

【市外高等学校2年生】※新型コロナウイルスの感染拡大により中止

学 校 名	収蔵庫 見学	土器 洗い	受付	土器 作り	資料 整理	発掘 体験	文化財 保護	インタ ビュー	備 考
知 立 東 高									
参加生徒数 計									0 人
R 3									4 人

(ク) 博物館実習

博物館学芸員養成講座を持つ大学からの要請により実習をおこなった。

a 期間：8月3日（水）～5日（金）、9日（火）～11日（木）（6日間）

b 実習生 愛知県立大学 1名
愛知学院大学 1名
中京大学 1名
筑波大学 1名
三重大学 1名 計5名

c 実習日程

開催日	午 前	午 後
8月3日	文化振興課の役割・博物館業務・博物館と学校教育（講義） 博物館見学	埋文センター・市民ギャラリー見学 美術資料の取扱い
4日	芸術文化行政・文化財保護行政（講義） 考古資料の取扱い	考古資料の取扱い 企画展示の流れ（講義） 常設展示替え
5日	歴史史料の取扱い	歴史史料の取扱い 地域博物館の役割（講義） 常設展示替え
9日	民俗資料の取扱い	民俗資料の取扱い 博物館と史跡（講義・実地）
10日	博物館と史跡 常設展示替え	常設展示替え
11日	常設展示替え	展示替えプレゼンテーション 常設展示替え

エ 地域連携活動

(ア) 博物館ボランティア

開催日	活動内容	ボランティアガイド延人数	参加人数
4月9日～8月27日 (延10日)	常設展ガイド (第2・4土曜日)	17	131

(イ) 学校教育活動への支援

小学年3年生の「昔の道具」学習などに対し、民具資料を貸し出し。（0件）

(2) 令和4年度下半期事業計画案

ア 展示活動

(ア) 安城市制施行70周年記念特別展「養生から健康へ」

a 会 期 令和4年9月23日(金・祝)～11月6日(日)
休館日：毎週月曜日(10月10日は開館)、実開館日数40日

b 趣 旨

「健康第一」という言葉が示すとおり、人間が生きていく中でもっとも大切だと考えられている「健康」は、歴史的にどのように考えられ、実践されてきたのでしょうか。本展覧会では、過去の人々の養生観、健康観の変遷について歴史的背景を踏まえて紹介していきます。特に、それまで中国の養生観を参照するものから日本独自の養生観が完成していく室町時代から江戸時代、個人で向き合う養生から国家が国民の身体を管理・保護していく近代に重きを置いて展示します。

c 観 覧 料 500円(中学生以下無料)

d 展示構成(出品点数125件)

- ・はじめに 健康ってなに？
- ・第1章 先史時代の健康を探る
- ・第2章 古代・中世の養生を考える
- ・第3章 江戸時代の養生を学ぶ
- ・第4章 近代の健康を知る
- ・おわりに 現代から未来の健康へ

e 出 版 物

- ・ポスター、チラシ、観覧券、図録(800部、A4判、88ページ)

f 関連行事 *指定管理者事業を除く

(a) 特別展記念講演会

- ・10月1日(土)「健康の社会史」
講師：新村 拓氏(北里大学名誉教授)
- ・10月2日(日)「健康と病気を人骨から探る」
講師：谷畑美帆氏(明治大学講師)

(b) 歴博講座

- ・10月15日(土)「養生・健康観の変遷」
講師：西島庸介(本館学芸員)

(イ) 企画展「勉強っておもしろい？」

a 会 期 令和4年11月26日(土)～令和5年1月15日(日)
休館日：毎週月曜日、実開館日39日

b 趣 旨

令和4年は明治5年に学制が公布されてから150年の記念の年です。近世後期から、庶民の子どもたちが通う寺子屋をはじめとした手習塾が普及し、子どもたちは師匠からそれぞれの学習進度に合わせて、実用的な読み書きや、教養として身に着けるべき知識を学んでいました。

明治5年の学制公布以降、社会情勢に合わせ制度が変化し、学ぶ内容について国から画一的な方針が示され、すべての子どもたちが学ぶ権利を持つようになりました。就学率が上昇するにつれて進学先が多様化していきます。市域では明治後期から大正にかけて愛知県立農林学校や、安城高等女学校などの中等教育機関が設立されます。また、地元の知識人たちが講師を務める夜学会が地域で開かれ、中等教育を受けることができない子どもたちにも学校教育の補習を行う機会がありました。その後、実業補習学校が設置され、義務教育卒業後の教育が進められていきます。

昭和初期から戦後にかけて、子どもたちが学ぶ内容にも戦争の影響が色濃く出るようになり、終戦間際には学ぶ機会は制限されました。そして、戦後には新たな教育制度が制定され、学びの環境も大きく変化していきます。また、社会教育・生涯学習として公民館などの場が整備されました。

今回の展示では、本館収蔵資料や、学校資料などの市域に残された資料を中心に、人々の学びの変遷と社会との関わりについて紹介します。

c 観 覧 料 無料

d 展示構成

- ・第1章 市域の学びの移り変わり
- ・第2章 社会情勢と勉強の変化
- ・第3章 戦後の勉強

e 出 版 物

- ・ポスター、チラシ、観覧券、パンフレット(1,600部、A4判、8頁)

f 関連行事 *指定管理者事業を除く

(a) 記念講演会

- ・12月11日(日)「寺子屋と近代学校」
講師：山下廉太郎氏(朝日大学教授)

(b) 歴博講座

- ・12月25日(日)「近代学校制度とその社会背景」
講師：本部はる香(本館学芸員)

(ウ) 特別展「家康と一向一揆」

a 会 期 令和5年2月4日(土)～3月19日(日)

休館日：毎週月曜日、実開館日39日

b 趣 旨

永禄6年(1563)に勃発した三河一向一揆は家康がその生涯の中で最初に経験した危機とされています。発端は三河三ヶ寺として当時三河本願寺教団の中心寺院であった本證寺(安城市)や上宮寺(岡崎市)などで、家康の家臣が対今川氏の戦いの準備として強引に兵糧米を集めたこととされています。同時期には家康配下の上野城酒井忠尚や東条吉良氏の義昭など多くの領主が反旗を翻していました。家康の家臣にも本願寺門徒が数多くおり、一揆方についています。半年に亘る戦いの後、家康は一揆方、反乱領主に勝利をおさめ、一揆に関わった坊主衆は家康領国外に退去しました。これら坊主衆の中には石山合戦や加賀一向一揆、長島一向一揆などに参加、または支援をするものもいました。

三河一向一揆終結後21年が経過した天正13年(1585)、三河三か寺を含む七か寺が赦免され、家康の領国内に戻りました。この赦免では家康の伯母妙春尼が中心的な役割を果たしました。その後、家康は、三河本願寺教団に礼銭を賦課し、天正16年には材木の京上を賦課するなど浄土真宗本願寺派への圧力をかける一方で、本願寺門主を隠退した教如と接近し、慶長7年(1602)に教如へ土地を寄進し、親鸞木像を本尊として安置させることで本願寺の東西分派へと導きました。本願寺教団への対応は一揆方に組し、放浪後再度召し抱えられた本多正信が中心となりました。

令和4年は三河一向一揆の勃発から460年を迎えます。今回の特別展では、三河一向一揆を中心に、その後の坊主衆・一揆方に組した家臣の動向、本願寺の東西分派から家康と本願寺の関わりについて家康の視点から紹介します。

c 観 覧 料 500円(小中学生無料)

d 展示構成

・第1章 三河一向一揆

(1) 松平と真宗(一揆勃発前史) (2) 一揆の経過 (3) 領主の反乱

・第2章 一揆退去と赦免

(1) 退去時期の坊主衆の動向 (2) 他国の一向一揆 (3) 真宗赦免

・第3章 東西分派と幕府

(1) 教如と西三河 (2) 東西分派

e 出版 物

・ポスター、チラシ、観覧券、図録(800部、A4判、約80ページ)

f 関連行事 *指定管理者事業を除く

(a) 特別展記念講演会

- ・ 2月5日(日) 「戦国時代の本願寺と三河」
講師：草野顕之氏(大谷大学名誉教授)
- ・ 2月18日(土) 「家康の大名化と本願寺門徒侍」
講師：村岡幹生氏(中京大学名誉教授)
- (b) 歴博講座
 - ・ 3月4日(土) 「家康領国退去中の真宗寺院」
講師：三島一信(本館学芸員)
- (c) 松平シンポジウム
 - ・ 2月26日(日) 「門徒久敷断絶す」
コーディネーター：谷口 央氏(東京都立大学教授)
- (d) 家康と一向一揆検定
 - ・ 3月12日(日)

イ その他

※下半期催し物案内参照

(3) 令和5年度事業計画

令和5年度展覧会

種別	テーマ	期 間
企画展	安城の今昔4 はかり ^{ます} ☑	4月～6月
特別展	安城譜代本多氏	7月～8月
特別展	安城譜代酒井氏	9月～10月
企画展	三河の戦国城館(予定)	11月～1月
特別展	昭和の家族人形展(予定)	2月～3月